

あまのり



青森の四季を イメージした 津軽びいどろ

昭和24年に青森市で創業した北洋硝子は、漁業用の浮玉製造で国内トップシェアを誇る一大メーカーでした。その後、浮玉の製造がガラスからプラスチックに移行したことから、長年の浮玉製造で培った「宙吹き」の技法を活用して昭和52年に誕生したのが「津軽びいどろ」です。待ちわびた桜、夏祭り、燃えるような色鮮やかな紅葉、雪景色。青森の四季の移ろいや、自然が織りなす情景からインスピレーションを得たハンドメイドガラスは、国内外から高く評価され、青森県の伝統工芸品に指定されています。

1500度の炉でガラスを溶融し、棒に巻き付け反対側から息を吹き込んで形を整えていく「宙吹き」。このほかにも、現在では、職人たちの修練の蓄積による9種類の製法・技法によってさまざまなテーブルウェアが生まれています。

「津軽びいどろ」の大きな特徴は、豊かな色彩を自在に表現できること。ガラス溶融のスペシャリストで、「あおもりマイスター」である中川洋之工場長がテーマに合わせて一つひとつ調合しており、その色数は100種類に及ぶと言います。

写真の「NEBUTA」シリーズは、ねぶた祭をイメージしたもので、国内外からの注文に製造が追いつかないほどの大人気商品。キラキラとはじけるようなカラフルな色ガラス。そっと手に取ると、夜空に映えるねぶたの情景が浮かび、お囃子の音色まで聞こえてくるようです。

▼関連記事はP6で

CONTENTS | 目次

- 特集 ▶ P2-5
人財きらめく、住んでよしの青森県
旬を食べよう。あおもり食材で簡単ヘルシークッキング/
青森さらりイッピン 私が出会った青森のイッピン ▶ P6
- 青森の未来に全力! 県職員最前線レポート「建設業って面白いぞ!」/
衆議院議員小選挙区の区割りが改定されました/
PCB廃棄物の処分期限が迫っています! ▶ P7
- 申吾のほっとコラム/あおもりインフォメーション ▶ P8

人口減少社会の克服へ

女性や移住者、そして地元で暮らす人々。誰もが青森県の良さに気づき、働きやすく、暮らしやすい青森県にすること。それが、人口減少克服への第一歩。

青森県は、人口減少、少子化・高齢化が急速に進んでいます。人口減少の原因は、進学・就職などで県外へ若者が転出する「社会減」と、出生数の減少、男女の平均寿命の短さなどによる「自然減」によるものです。

県では、平成27年8月に「青森県長期人口ビジョン」を策定し、人口減少の克服に向けたさまざまな取組を総動員することにより、県全体の総人口は2080年（平成92年）以降、約80万人で安定するという将来展望を示しています。

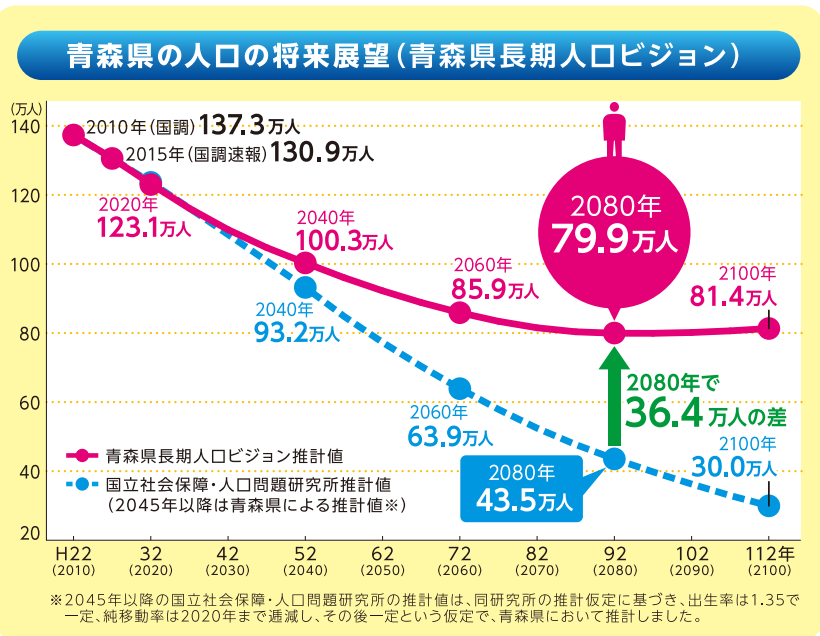
また、これを実現していくため、「まち・ひと・しごと創生青森県総合戦略」を策定し、「社会減対策」と「自然減対策」の両面から、人口減少の克服に向けた取組を強化しています。

「社会減対策」では、高品質の農林水産物の生産など本県の強みを生かした魅力ある仕事づくり、女性・若者の県内定着と首都圏などからの移住、転入の促進など、「自然減対策」では、結婚・妊娠・出産・子育てに対する支援や健康づくりの推進などに重点的に取り組んでいます。

「社会減対策」では、高品質の農林水産物の生産など本県の強みを生かした魅力ある仕事づくり、女性・若者の県内定着と首都圏などからの移住、転入の促進など、「自然減対策」では、結婚・妊娠・出産・子育てに対する支援や健康づくりの推進などに重点的に取り組んでいます。

また、これを実現していくため、「まち・ひと・しごと創生青森県総合戦略」を策定し、「社会減対策」と「自然減対策」の両面から、人口減少の克服に向けた取組を強化しています。

また、これを実現していくため、「まち・ひと・しごと創生青森県総合戦略」を策定し、「社会減対策」と「自然減対策」の両面から、人口減少の克服に向けた取組を強化しています。



まち・ひと・しごと創生青森県総合戦略 (青森県の人口減少対策)

政策分野① 強みをとことん、魅力あふれるしごとづくり

政策分野② 人財きらめく、住んでよしの青森県

首都圏などからの移住促進や若者の定着促進、魅力的な生活環境や誰もが活躍できる社会環境づくりなどを進めます。

- ▶ 女子学生等や子育て女性に対する就活・キャリア形成支援
- ▶ 移住・U/IJターン就職の促進
- ▶ 教育機関、生徒・保護者・学生等と企業の相互理解促進 など

政策分野③ 地域でかなえる、子ども・未来の希望

政策分野④ 課題をチャンスに、めざせ健康長寿県

社会減対策

自然減対策

自然、食、人のつながり 都会にはない魅力がある

野宮真美 私の出身は、神奈川県ですが、両親ともに青森県出身ということもあり、私が中学校入学の時、家族で五所川原市に移り住みました。現在は、キャリア形成・人材育成などを通じて就職サポートを行う会社に勤務し、働きながら、中2と小2の子どもたちを育てています。

成田麻衣 私は、弘前市出身で、OA機器、医療機器などに使用する微細な金属製品の切削作業やめつき加工を行う会社で営業をしています。国内外の展示会や商談会に出かけたり、最近では製品開発にも関わっています。

鈴木優里 私は、青森大学社会学部に在学しています。卒業後は地元・十和田市の職員として、若い人が住みたいと思えるような街づくりに関わるのが夢です。

野宮真美さん 株式会社I・M・S 総務部長 あおり女子就活・定着サポーター

— 県内就職を希望した理由は？ —

野宮 都会の人混みが苦手、満員電車で揺られて通勤する自分が想像できなかったから(笑)。それに、子どもが生まれたら自





青森大学 社会学部 1年
すずき ゆり
鈴木 優里 さん

然の中でのびのび育てたいと思
っていたので。

成田 地元には親や親せき、友
達がいるので、何かあった時でも、
助け合える安心感があります。
自然も豊富で大好きな温泉も
多く、余暇も楽しみながら暮ら
せるのが青森の魅力ですね。

鈴木 私は高校3年生の時に、
古くから受け継がれる十和田の
伝統行事を知りました。それが
きっかけとなり、バーチャルなも
のが多い現代、地域の人たちの
の温かいふれあいやコミュニティ
など、人と人とのつながりが強
い地元を離れたくないなど実感
したからです。

**女性が働きやすく活躍できる
さまざまなサポート**

—仕事と育児を両立するため
に必要なことは？—

野宮 会社の支援体制も重要
です。私の会社は、女性が働き
やすい職場づくりに積極的に取
り組んでいるので、皆さん仕事と
子育てを両立させ、イキイキと
活躍しています。子どもが急に
熱を出した時も「お互いさまだ
から」と、フォローし合える雰
囲気があるし、やる気がある女性
社員には役割を与えステップア

アップできる環境を整えています。
私も昨年、管理職になったので、
社員が話しやすい環境づくりや
妊娠中の対応など、後輩社員を
バックアップできるように努め
ています。

成田 私の会社は30代が多く、3
割が女性。もともと就業時間が
8時から17時で、残業はほとんど
ありませんが、妊娠・育児中は、時
短勤務を取り入れるなど、会社全
体で子育てを応援しています。

鈴木 仕事と育児の両立は、
家族の協力が必要ですよ？

野宮 子育て真っ最中のこ
ろは、夫が進んで保育園のお
迎えをしてくれ、今でも家
事など一緒にこなしています。
おかげで、存分に働けます。

**県内で「働く&子育て」の
イメージを伝えたい**

—「あおもり女子就活・定着
サポーター」として、今後の
抱負は？—

野宮 私自身の経験を伝え、
学生の皆さんが県内で働き
子育てするイメージを描ける
ように応援したいですね。

成田 今後、学生との交流会
が県内外で開催されるので、
首都圏に進学した人が青森



株式会社コア 営業課
あおもり女子就活・定着サポーター
なりた まい
成田 麻衣 さん



にUターンしたいと思えるような
情報を届けたいですね。

鈴木 先輩たちのお話を伺って
「青森にはこんな素晴らしい会社
があるんだ！」と驚きました。同
時に、県内企業のことをもっと知
りたくなりました。私も県が開催
する交流会や「女子学生のための
企業見学会」に参加し、たくさん
先輩方の生の声を聞きたいです。

成田 早い段階から県内企業を
知ること、将来の選択肢が広が
りますからね。

野宮 私たちも学生の職業観を
知るとは貴重な機会。青森が
好きだからこそ、県内就職を希
望する学生がもっと増えてくれ
ればいいと思います。



書館などでリ
フレッシュで
きるよう配慮。
「ありがとう」
という言葉を
かけあい、思い
やりのある関
係性を大切に
しています。

現在5カ月になる長女が産まれた時に
配偶者出産休暇を取得しましたが、日頃
から掃除、洗濯のほか休みの日は娘をお
風呂に入れるなど家事や育児に関わって
います。妻は育休中で日中は子どもと2
人きりで過ごしているため、土日は妻が図
書館などでリ
フレッシュで
きるよう配慮。
「ありがとう」
という言葉を
かけあい、思い
やりのある関
係性を大切に
しています。

当社は、ハイブリッドカーに使用する回
転角度センサや、カーナビ、新幹線に搭載
されている自動姿勢制御装置のジャイロな
どの開発・製造・販売までを一貫して手が
けており、私は設計業務に携わっています。
「子育てサポート企業」として厚生労働
大臣より「くるみん」の認定を受け、県の
「あおもり働き方改革推進企業」にも認証
されており、フレックスタイム制の導入な
ど誰もが働きやすい環境づくりに取り組
んでいます。

配偶者出産休暇を取得！ 家事や育児も夫婦で協力



【インタビュー】
多摩川精機株式会社 やまみち しゅういち
モーションコントロール 山道 修一 さん
研究所 技術課

あおもり働き方改革 推進企業認証制度

労働者の結婚や子育ての希望を叶える働きや
りやすい環境づくりを推進するため、「働き方改革」に
取り組む企業を県が認証・支援し、持続的な企業
の成長を応援します。

【認証企業のメリット】

県働き方改革推進事業費補助金の利用、県特
別保証融資制度「未来を変える挑戦資金」の利
用、金融機関の低利融資の利用、県入札参加資
格申請時の加点（建設工事・物品・役務）、求人票
への表示、県ホームページでの取組紹介等

詳しくは、県庁HP [働き方改革推進企業](#) [Q検索](#)
こどもみらい課 ☎017-734-9301

あおもり女子就活・ 定着サポーターズ

これから就職を考える女子学生の皆さん、
就職してまだ間もない女性の皆さんは、就職、
結婚、出産、育児等、これから迎えるライフイ
ベントを経て、継続して働き続けることへの不安を抱えている方も多いのではない
でしょうか。

県では、女性の活躍を推進する県内事業所で、イキイキと輝きながら働く女性たちによる「あおもり
女子就活・定着サポーターズ」(通称:あおもりなでしこ)を結成し、今後、女子学生・若手女性社員を
対象に、交流会や企業見学会を開催します。さまざまなライフイベントを経て、輝いているサポーター
の皆さんの姿を見て、聞いて、青森で「働く&暮らす」魅力を体感してください。豊かな自然や温かい
人々に囲まれた青森だからこそ叶えることができる女性たちのキャリアプランニングをお伝えします。

◎交流会(女子会)／開催時期：8月～10月 開催場所：青森市、弘前市、八戸市、盛岡市、仙台市、
東京都(各会場1回全6回) ◎企業見学会(バスツアー)／開催日：8月30日(水)

詳しい内容、お申込みは、県庁HP [女性 就活](#) [Q検索](#) 労政・能力開発課 ☎017-734-9398



「帰ってきたい!」を応援します!!

「進学や就職で県外へ出たが、いずれは青森に帰ろう」「青森に移り住みたい」という方へ

移住相談はあおぐら (青森暮らしサポートセンター)へ!

東京・有楽町に移住相談窓口を開設し、しごと、住まい、移住支援、各種イベントなどの情報をそろえ、幅広い相談に対応しています。首都圏在住の本県出身の方など、「青森暮らし」をお考えのお知り合いの方に、ぜひご紹介ください。



(左:長野相談員/右:澤相談員)

〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-10-1 東京交通会館8階 ふるさと回帰支援センター内
◎開設時間 10:00~18:00【月・祝日、夏季休業期間及び年末年始はお休みです。相談会等で不在にする場合もあります。】
TEL. 03-6273-4820(直通) / 090-6342-6194(移住・交流相談員) FAX. 03-6273-4821
E-mail. aomori@furusatokaiki.net

相談の7割が現役世代、Uターンも年々増加

最近の移住相談の傾向について、青森暮らしサポートセンターの澤相談員にお話を聞きました。

青森暮らしサポートセンターがある「ふるさと回帰支援センター」には、39道府県1政令市が専属相談員を配置しているため、毎日多くの方が移住相談にいらっしゃいます。相談件数は年々増えており、「ふるさと回帰支援センター」全体では開設当初の2008年と比較して、2016年は10倍以上と増えています。利用者の傾向も変化していて、2008年は60歳以上の利用者が全体の約4割を占めていましたが、現在では20~40歳代の方が7割近くを占めています。また、ふるさとに帰るUターンの相談が年々多くなってきている印象です。

ふるさと回帰支援センター
年代別利用者

相談者のUターン率の推移

2013年	4.1%
2016年	3.3%

2016年 Uターン率の内訳

Uターン	20.8%
Uターン	32.5%
Uターン	75.2%
Uターン	62.2%
Uターン	1.0%

※構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100とはなりません
出典: データで見る移住希望者の動向 2016 (NPO 法人ふるさと回帰支援センター作成)より

Uターン相談 お待ちしております!

あおもり移住・交流推進協議会(事務局: 県地域活力振興課)では、青森県への移住をお考えの方へ向けた移住セミナーを、市町村と連携して開催しています。

移住セミナーのほかにも、市町村の職員が青森暮らしサポートセンターにて出張相談を行う「市町村相談デスク」も開催予定です。詳細なスケジュール、参加市町村等は、「あおもり暮らし」のホームページにて随時更新していきますので、首都圏在住の本県出身の方など、青森への移住をお考えの方にぜひご紹介ください。

【青森県合同移住フェア】

■日時: 8月26日(土) 13:00~16:30
■会場: 東京交通会館3階 グリーンルーム

県や14市町村と個別相談できるほか、就職や起業、就農などテーマ別の相談も受け付けます。青森県で新しい暮らしを検討されている方のご来場を、お待ちしております!

移住者交流会に 参加しませんか?

県では、青森県へ移住された皆さんに、地域に馴染み安心して住み続けてもらうため、移住者や地域の方々を対象とした交流会を開催しています。ぜひご参加ください。



【今後の開催スケジュール】

■日時: 8月20日(日)【時間未定】
■会場: 松の湯交流館(黒石市)
※詳細が決まり次第、「あおもり暮らし」ホームページにてお知らせします。

青森県移住・交流ポータルサイト「あおもり暮らし」

県内40市町村の移住支援施策や住まい情報などを掲載しているほか、移住者のメッセージなど「あおもり暮らし」の魅力を発信しています。



詳しくは、あおもり暮らし

■移住パンフレットをダウンロードできます!

県内40市町村の暮らしの情報や移住・定住への支援のほか、県の移住相談窓口や就職情報、住まい情報等を掲載した「あおもり移住・定住ガイドブック」を作成しました。青森暮らしサポートセンターで配布しているほか、「あおもり暮らし」ホームページからもダウンロードできます。



【4~5ページの特集記事に関する問い合わせ先】 地域活力振興課 ☎017-734-9174

8月 人財きらめく、住んでよしの青森県 関連番組 放送予定

放送局	番組名	放送日時
青森放送	大好き、青森県。	8月20日(日) 17:00~17:15
青森テレビ	みんなの県庁!	8月5日(土) 16:55~17:00
青森朝日放送	メッセージ	8月12日(土) 9:30~9:35
		8月19日(土) 9:30~9:35



魅力的な人たちと青森で働きたい! “人”との出会いがカギ

私は青森市出身で、茨城県の大学・大学院を卒業後、茨城県で高校の教員や、民間学童保育の教室長として働いていました。40歳までには地元に戻りたいと考えていたので、Uターンに向けて情報収集のため、青森県で起業・創業支援を行っているインキュベーション・マネージャーが東京で開催したセミナーに参加するなど、できるだけ青森に関わる人とのつながりをつくるように心がけていました。

そんななか「青森暮らしサポートセンター」から紹介された、東京と青森の交流会「あおぐら」というイベントへ参加。そこで、現在私が働く職場の方をはじめ、多くの方と出会いました。「青森には魅力的な人たちがたくさん暮らしている、自分も一緒に

に何かできたら楽しそう!」と、青森へ帰ったあとの暮らしを具体的にイメージしはじめました。それをきっかけに、県が主催するさまざまな移住イベントに参加。そのたび、青森に暮らす地元の方と出会い、つながりを増やし、平成29年4月、約20年ぶりに青森での暮らしを始めました。

今、一番強く思うのは、「何をやるか」より「何を誰と一緒にやるか」が重要なポイントだと思っています。それに気づかせてくれた移住イベントでした。

つながらせるためのイベント「あおもり回帰1000人会議」の開催にも携わっています。

私の場合、Uターンが決まった時、一番不安に思ったのは、雪道の運転でした。そんな不安を、移住者が楽しみながら解消できる「雪国暮らし体験」のようなイベントを今後企画できたらと思っています。せっかく青森で暮らすのですから、カーリング



やカヌー、津軽三味線なども始めてみたいですね。青森で暮らしているとなんか、逆になんか目が行きがちですが、逆に青森にしかないものもたくさんあり、今は、そういうものを見つける喜びも味わっています。人が楽しく過ごしている場所には多くの人が集まってくると思うので、自ら青森暮らしを楽しみながら、メッセージを発信していきたいと思っています。

循環型農業を目指し 夫婦で五戸町に移住



【インタビュー】
山口 平さん 神奈川県出身、平成29年3月、夫婦で五戸町に移住。新規就農を目指し、現在、「はる園圃」で農業研修生として勉強中。
山口 千代さん 平内町出身、「五戸町地域おこし協力隊」として町の活性化に向け活動中。

私は神奈川県、妻は平内町出身で、関東エリアで会社員として働いていた時に出会い結婚。そのころ、私がかゆみに悩まされるようになり、食や環境問題、農業に関心を持ち始めたんです。夫婦で「自然農塾」で学び、農家の手伝いをするうち、安心・安全で自然にも負荷がかからない農業を目指したいと思うようになりました。

妻は、いずれは青森に帰りたいという思いがありました。そこで、青森で新規就農するための情報を収集しようと、東京の有楽町にある「ふるさと回帰支援センター」で開催された「青森暮らしセミナー」に参加したのが移住のきっかけに。その会場で、神奈川県から五戸町に移住した農園を営む夫婦と

出会い、彼らが取り組む無農薬・無化学肥料での野菜づくりが、私たちが目指すところでもあり、「五戸町は農業に向いている土地。雪が少なく住みやすく移住者も多い」という言葉に心が動かされました。

その後、五戸町に何度か足を運びました。町役場の方は、いつも親身になって、町案内や先輩移住者を何人も紹介してくれて、空き家の持ち主である地元の方もとても親切にしてくれました。

食の豊かさ
住民の温かさに支えられ

現在、私は新規就農を目指し、農業研修生として勉強中、妻は「地域おこし協力隊」として活動しています。五戸町に来て驚いたのは食の豊かさ。私は「丸いも(つくねいも)のおいしきにはまり、妻は商店街のせんべい屋さんなど、この土地の食文化に興味津々。また、私たちの住まいも地元の方々がリフォームを手伝ってくれ、近所のおばあちゃんのごみの出し方を教えてくれる。地域の皆さんが、私たち二人にとっても温かく接してくれました。先輩移住者の「消防団に入る

と地域に溶け込みやすいというアドバイスを受け、早速入団。おかげで、スムーズに地域の方と打ちとけることができました。

「青森暮らしセミナー」など青森県が開催する移住イベントに参加したことが、私たちの移住の決め手。移住を考えている方は、そのような機会に積極的に参加して、人のつながりをつくることをお勧めします。人から人へと輪が広がって、移住先での暮らしを支えてくれると思います。



移住者をサポートする地域の輪が、県内にどんどん広がっています。

旬を食べよう。 あおもり食材で 簡単ヘルシークッキング

青森毛豆編



動中の「青森毛豆研究会」(大浦雅勝会長)が毎年開催している「最強毛豆決定戦2016」では、おいしさが高く評価されグランプリを受賞しました。秋になると、板柳町ふるさとセンター「農産物直売アンテナショップ」とれたて市、青森毛豆通販サイト「毛豆本舗」で購入できるのでぜひ味わってみてください!

濃厚な甘みと旨さ! 枝豆の王者・青森毛豆



「いたや毛豆研究会」会長
おさない しょうご
長内 将吾 さん

9月中旬から10月上旬に収穫される青森毛豆は、濃厚な甘みと香り、栗のようなほつくりとした食感が特徴です。青森の在来種で県外の方にはあまり知られていないことから、板柳町と地元農家の有志が立ち上がり、農薬不使用、有用微生物活用農法で「いたや毛豆」を栽培。県の「特別栽培農産物」の認証を受けています。昔から地域では、防虫・風味アップのために、唐辛子、酢、焼酎に納豆菌を混ぜたものを散布してきましたが、私はさらに極上の甘みと香りを追及しようと、独自でさまざまな方法に挑戦。青森毛豆のブランド化を目指して活



毛豆三色すり身揚げ

【一人分のエネルギー: 373kcal / 塩分2.4g】

〈共通の材料〉

毛豆……………200g
かたくり粉……………大1
卵……………1/3個
塩……………小1/4
しょうゆ……………少々
酒……………大1
生姜すりおろし……………少々
はんぺん……………1/6枚
揚げ油……………適宜
溶き辛子……………適宜
しょうゆ……………適宜
※材料はそれぞれ4人分です。

〈鮭すり身の材料〉

鮭……………100g
かたくり粉……………小1
⑥ 茎わかめ(干)……………少々

〈青魚すり身の材料〉

青魚(かつお・イワシなど)……………100g
かたくり粉……………小1
にんじん(5mmの角切り)……………10g
ごぼう(ささがき)……………10g
ねぎ(小口切り)……………10g

〈鶏肉すり身の材料〉

鶏ひき肉……………100g
⑥ かたくり粉……………小1

〈作り方〉

- ① 毛豆は、水からゆでる。
- ② ゆであがったら冷まして、サヤから取り出した実にかたくり粉をまぶし3等分しておく。
- ③ 鮭、青魚、鶏ひき肉、それぞれに④を加え、1種ずつミキサーでペースト状にし、ボールに移す。
- ④ 鮭ペーストには⑥を、青魚ペーストには③を、鶏ペーストは⑥を、②と一緒に加え混ぜ、それぞれを4等分にする。
- ⑤ 中温の揚げ油で、④を揚げる。
- ⑥ 器に盛り付け、辛子しょうゆをつけていただく。

るみ子先生のワンポイントアドバイス

毛豆の上手なゆで方は、サヤの両側を切り、鍋に塩を加え、水からゆでるのがポイント。ゆっくりと熱を通すと実が柔らかく仕上がります。ゆで上がった毛豆をザルにあげ、うちわなどであおぎながら冷ますと毛豆の風味をより豊かに楽しめます。

レシピ開発・調理 / 管理栄養士 福土るみ子



私が出会った 青森のイッピン

vol. 8

北洋硝子株式会社 / 津軽びいどろ

色を生み出すことからはじまる、こだわりの美しさ。

グラスを片手に、あちちを透かしたり、こっちに置いてみたり、テグスで宙に浮かしてみたり…今回の青森きらりイッピン「津軽びいどろ」の撮影は、モチーフとなった「NEBUTA」シリーズの製品を手にスタッフが立ったり座ったり寝転がったりする現場となった。傍から見れば訝しい光景だろうが、色とりどりのドットが絶妙に波打った硝子を彩ったグラス

やお皿は、背景によっていろんな表情をみせてくれ、いろいろと試してみたいくなる魅力があった。
工場長の中川さんは「55人のスタッフの平均年齢は30歳くらいです」と話してくれた。確かに北洋硝子の工場には若手の姿が目立つ。皆、黙々と作業をしているが、若手とベテランでバランス良いチームワークが成り立っている工場の空気が印象的だった。

若手とベテランがうまく融合した工場で、燃えたぎる炉から徐々に冷やされて生まれた作品からは、海風に乘ったねぶたの熱が伝わってくる。



青森県伝統工芸士 芳賀清二さん



工場長の中川洋之さん



若手職人が腕を振るう工場

本誌題字タイトル / 「青森きらりイッピン」ロゴタイトル



書家
菊池 錦子 KINKO KIKUCHI
【プロフィール】
青森県弘前市出身
個展で書を発表しているほか、自身の書と写真で綴った「ゆりかごII」の出版、NHK大河ドラマ「篤姫」・「江～姫たちの戦国～」の題字をはじめ、映像・イベントなどのタイトルや社名、商品名など多方面にわたって数多くの筆文字のロゴも手掛けている。

表紙撮影 / 「青森きらりイッピン」取材撮影・文



カメラマン
望月 研 Ken Mochizuki
【プロフィール】
山梨県出身宮城県在住。1998年東京外国語大学ビルマ語学科卒業。NHKの番組ディレクターを経て、カメラマンに転職。アシスタントを経てフリーとなり、2012年仙台に拠点を移す。ファッション・ポートレイトをメインに、建築や料理撮影など活動の幅は広く、空間のもつ色彩やスケールを、その撮影目的の世界観で写真に定着する。

「青森きらりイッピン」
動画コンテンツを配信しています。

青森が誇る「ヒト」、「モノ」、「コト」を紹介する動画コンテンツ「青森きらりイッピン」を、YouTube、Facebookで配信しています。スマートフォン、パソコンで「青森きらりイッピン」を検索してご覧ください。「青森きらりイッピン」の紹介ホームページはこちら http://www.pref.aomori.lg.jp/koho/tv/int_kirari.html

建設業って面白いぞ！

監理課 田村 昂広

取組紹介

私は、次世代を担う子どもたちに建設業の魅力を伝える仕事に携わっています。

建設業は、インフラ整備・維持、除雪など地域の維持・発展に必要不可欠な「県民産業」ですが、近年、若い世代の就業者数の減少が課題となっています。

そのため、県では、建設業が将来にわたり人材を確保し、存続していくことを目的として、県内の児童・生徒を対象に建設業の魅力を発信する「働かせたい・働いてよかった建設業発信事業」を実施しています。

今年度は主に次のような取組を進めています。



バスツアーの現場を入念に見る

【取組1】児童・生徒向け公開講座

「北海道新幹線のトンネルはどうやって作られたのか！」「次の現場は宇宙？最新の建設技術とは!?」「Mr.マサック先生による魔法の科学実験！」などをテーマに、大人も子どもも楽しく学べる公開講座を開催します。

【取組2】建設業の魅力を再発見！夏休み親子バスツアー

普段は入ることのできない工事現場の見学や、船に乗って海から見学する港など、日常ではなかなかできない体験で、建設業の持つ魅力を親子で再発見できるバスツアーを開催します。

【取組3】2017小・中学生建設業写真コンテスト

県内の小・中学生を対象に、建設業をテーマ



見学内容を関係者と打ち合わせ

とした写真コンテストを開催します。

青森県の豊かな自然や暮らしと建設業が調和してい

るお気に入りの風景を写真に撮って、ぜひコンテストに応募してください。

業務にかける思い

建設業は人々の生活を支える、非常にやりがいのある重要な仕事ですが、残念ながら、近年は若い方の就業者数が減少傾向にあります。

しかし、「自分の思いを形にできる」「地図や人々の記憶に残る仕事ができる」、そんな建設業の魅力を知ってもらえることができれば、必ずや将来建設業を志す子どもたちが増えてくれると私は信じています。

「建設業って面白いぞ!」。近い未来に、多くの子どもたちにそう思ってもらえるよう、これからも全力疾走で取り組んでいきます。

◎詳しくは、[青森県 働かせたい](#)

監理課 ☎017-734-9706

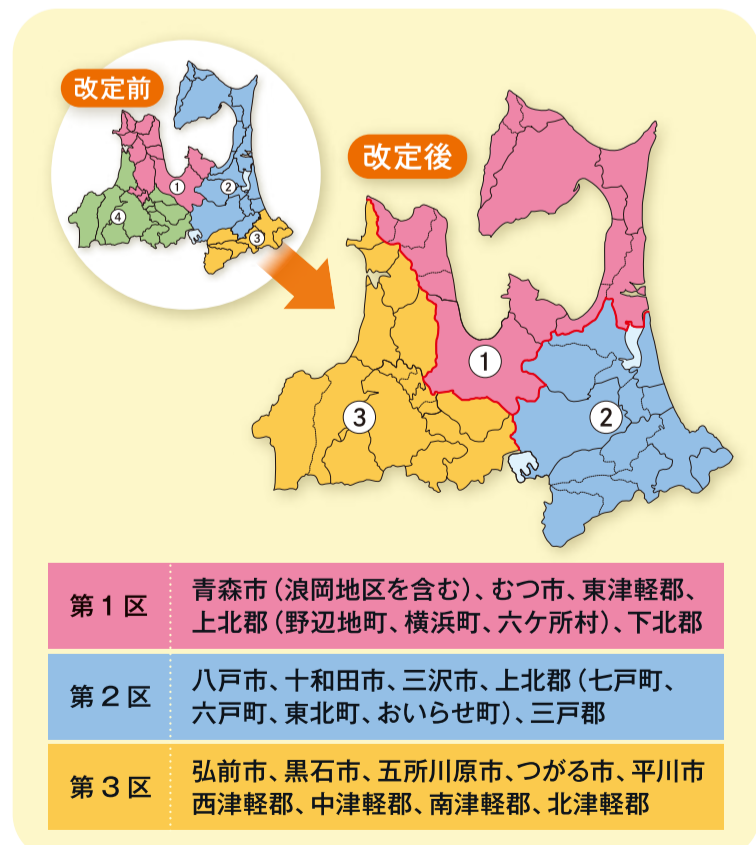


田村 昂広 / 休日は、趣味のジョギングで汗を流す体育会系で、今年は、県内の各マラソン大会に挑戦予定。培った体力と脚力で、日々の業務も全力疾走中!

衆議院議員小選挙区の区割りが改定されました

衆議院小選挙区選出議員の選挙区間における人口較差を是正するための新しい区割りに関する法律が平成29年7月16日に施行されました。

これにより、本県の小選挙区の数が増え、次の衆議院議員総選挙からは、新しい選挙区で選挙が行われます。



◎詳しくは、県庁HP [区割り 改定](#)
選挙管理委員会事務局 ☎017-734-9076

PCB廃棄物の処分期限が迫っています!

～PCB廃棄物は定められた期限までに処分しなければなりません～

■PCBとは

PCB(ポリ塩化ビフェニル)は、電気機器の絶縁油等に広く使用されてきましたが、人体に有害であることが判明し、昭和47年以降は製造や新たな使用が禁止されました。このため、PCBが含まれる廃棄物(PCB廃棄物)は、適切に保管を行うとともに、その種類に応じて定められた期限までに処分する必要があります。

■PCB廃棄物の種類と処分期限

PCB廃棄物は、含有されるPCBの濃度により「高濃度」と「低濃度」に分類され、それぞれ処分期限が決まっています。

PCB廃棄物の種類		処分期限
高濃度PCB廃棄物	変圧器・コンデンサー	平成34年3月31日まで
	安定器及び汚染物等	平成35年3月31日まで
低濃度PCB廃棄物		平成39年3月31日まで

■PCBが使用されている代表的な機器

右の機器を保管または使用していないか、今一度、ご確認をお願いします。



■PCB含有の有無を判別する方法

機器の銘板(メーカー、型式、製造年月日等)を確認し、メーカーに問い合わせるなどしてください。

また、使用中の機器を確認する場合、大変危険ですので、必ず電気主任技術者等に依頼してください。ご不明な点は環境保全課にお問い合わせください。



◎詳しくは、県庁HP [PCB 処分](#)
環境保全課 ☎017-734-9248

申吾の(ほっと)コラム

女性から発信する「青森で働き、青森で人生を送る幸せ」

青森県知事 三村 申吾

6月12日、「あおり女子就活・定着サポーターズ」の結成式が行われた。メーカー、建設、金融、福祉、マスコミ、コンサル等、いろんな分野でバリバリ活躍中の女性たち12名に、サポーター代表の委嘱状を交付させていただいた。

今後、県内外での女子会(交流会)や、女性活躍に熱心な県内企業の見学会を行い、育児しながら働き続けるサポーター自身の経験やそれを応援する仕組み等を紹介して下さることになっている。

また、県が、東京・仙台・青森等県内外で開催する合同企業説明会の相談コーナーで、青森県での就職を目指す方々の相談にも応じる予定である。

サポーターの方からは、「女性はライフステージによって働き方が変わります。企業や社会が、女性の働き方に理解を示し、応援してくれれば女性はもっと能力を発揮していけると思います。・・・職員が長く働ける職場を

目指して、さまざまな働き方を今後も応援していきたいと思います。」との言葉をいただき、感激した。

我々が役所的に「こういう制度、ああいう支援があって」と語るよりも、「論より証拠」と云うか、県内において実際に「働き方改革」を企業と共に実践し、働き甲斐、働き易さを、あとに続く女性たちのために創り上げて来たサポーターズの生の声を聴いてもらう事は、何よりも“青森で働こう”、“青森での人生を選ぼう”という、大きなきっかけになると確信している。

そこで、この8月号をご覧いただいている県民の皆様にお願ひがあります。もし就活中の女子の方々が周りにおいででしたら、今回だけ特別に、是非私たちの「女子会」や「企業説明会」等でサポーターズと出会ってみて下さるようお口添えを願えないでしょうか。

サポーターズは、彼女たちの「青森で働き、青森で人生を送る幸せ」のキャリアプランを必ずや共に描いてくれます。

AOMORI information

あおりインフォメーション

高等学校等予約奨学生募集

～安心して高校へ進学しよう～



◎対象：保護者が青森県の住民で、来年4月に高等学校等へ入学を希望する**中学3年生**

◎貸与月額：	国・公立		私立	
	自宅通学者	自宅外通学者	自宅通学者	自宅外通学者
	18,000円	23,000円	30,000円	35,000円

◎募集人員：約500人

◎返 還：無利子で、貸与終了後1年据置、貸与期間に3を乗じた期間内に全額返還(3年間借りた場合は9年間で返還)

◎申込・締切：県内の各中学校にある「予約申込書」と添付書類を中学校へ提出(中学校から本会への締切は9月11日(月))

青森県育英奨学会(教職員課内) ☎017-734-9879

三内丸山縄文夏祭り開催!

青森市の三内丸山遺跡では、三内丸山縄文夏祭りを開催します。クイズラリーのほか、子どもから大人まで楽しめるたくさんのイベントを企画しています。

夏休みは三内丸山遺跡で、楽しく縄文を学んでみませんか?



縄文ファッションで記念撮影の様子

◎日時/8月11日(金・祝)～12日(土)9:00～18:00(最終入場17:30)

◎場所/三内丸山遺跡縄文時遊館(青森市三内字丸山305)

詳しくは、[三内丸山遺跡](#) [Q検索](#) [三内丸山遺跡縄文時遊館](#) ☎017-781-6078

ご存じですか?

「ヘルプマーク」「ヘルプカード」

ヘルプマークは、外見では障害があると分からなくても周囲の方に配慮を必要としていることを知らせるためのマークです。



「ヘルプマーク」を身につけている方を見かけたり、「ヘルプカード」の提示がありましたら、電車やバス等の乗り物内で席をゆずる、困っているようであれば声をかける等、思いやりのある行動をお願いします。

※「ヘルプマーク」「ヘルプカード」は市町村の障害福祉担当課で配布しています。

詳しくは、県庁HP [ヘルプマーク](#) [Q検索](#) 障害福祉課 ☎017-734-9309

～働く人の明日をつくる～

平成29年就業構造基本調査の実施

15歳以上の皆さんの普段の仕事の状態、仕事に関する希望、育児や介護の有無などを調べる「就業構造基本調査」が全国一斉に実施されます。

この調査の結果は、国や県などの雇用政策や育児・介護と仕事の両立支援など、重要な政策の基礎資料として活用されます。

9月から、調査対象地域にお住まいの世帯に、調査員証を持った調査員がお伺いしますので、ご協力をお願いします。

詳しくは、県庁HP [平成29年就業構造基本調査](#) [Q検索](#) 統計分析課 ☎017-734-9169



みなさんと県庁を結ぶ 県政インフォメーション

テレビ

- RAB[LINK/青森県](30秒スポット)
- RAB[大好き、青森県。](第三日曜日)17:00～17:15(放送週が変更になることがあります)
- ATV[みんなの県庁!](土)16:55～17:00
- ABA[メッセージ](土)9:30～9:35

ラジオ

- RAB[青森県広報タイム](月)～(木)7:30～7:35
- エフエム青森[あおり・ふあん](月)～(金)16:55～17:00
- エフエム青森[申吾のほっとチャンネル](第一日曜日)7:00～7:30

新聞

- [広報あおりけん]毎月1日・16日
- 東奥日報・デーリー東北・陸奥新報

■青森県広報広聴課公式Facebook (<https://www.facebook.com/AomoriPref.koho>) ■青森県庁Twitterアカウント (@AomoriPref) ■青森県広報広聴課Twitterアカウント (@aomorist)

編集発行/青森県広報広聴課 ☎017-734-9137

〒030-8570 青森市長島1-1-1/県のホームページ <http://www.pref.aomori.lg.jp/>

この印刷物は527,000部作成し、印刷経費は1部当たり9.2円です。